

| | | |
|------|----------------------|--------|
| 最優秀賞 | 石楠花や 谷の底行く 飯田線 | 遊泉 |
| 優秀賞 | 花筏 寄りて離るる 淡き恋 | ふる武 |
| 優秀賞 | 馥郁と 千種公園 百合香る | 柘植 登志子 |
| 優秀賞 | 向日葵も 顔を背ける 陽射しかな | 平野 弘 |
| 佳作 | 茶屋が坂 上り四葩の 花の海 | キタロー |
| 佳作 | 春蘭は ひっそり生きる 醜女花 | 岡部 倫子 |
| 佳作 | 白壁に 命ゆだねる 時計草 | 林 石根 |
| 佳作 | ゆりの園 色香に酔ひて 時わすれ | 佐藤 成子 |
| | 朝顔や 個性光りし 鉢の中 | ゆったん |
| | 来年の 再会祈る 桜の木 | ゆったん |
| | 疎々と咲く 塀をくぐりて 十葉 | 前島 千枝子 |
| | 小梅落つ やしろの楠の木 夏の音 | 前島 千枝子 |
| | 疎々と咲く 薄きむらさき 薊かな | 前島 淑恵 |
| | 露草や 咲いて清々 見て涼し | 前島 淑恵 |
| | 崖上の 長き黒塀 朴の花 | 遊泉 |
| | 朝八時 「行ってきます」と 朝顔と | 柘植 雅一 |
| | 夕暮れに 夏惜しむよに タチアオイ | 柘植 雅一 |
| | 落ちてなほ 気品を保つ 有楽かな | 副松 勲 |
| | 菖蒲園 土手をゆっくり 車椅子 | 副松 勲 |
| | アジサイの 森のごとくや 茶屋ヶ坂 | 高田 雅子 |
| | 千種区の アジサイ五千 茶屋ヶ坂 | 高田 雅子 |
| | 房垂れて 藤の花ほかは 目も呉れず | 久木野 鉄次 |
| | 夏の夕 FBCの花に 水やる子等 | 久木野 鉄次 |
| | 向日葵は 慟哭の花 八月来 | 飯田 正幸 |
| | 手洗ひの マスクの雫 額の花 | 飯田 正幸 |
| | 紫陽花や 仁丹ほどの イヤリング | 徳井 美弥子 |
| | はかなげな 蟬の声聞く コワラかな | 徳井 美弥子 |
| | クレヨンのあか・しろ・きいろチューリップ | 坂本 雅則 |
| | 神苑の日当たる雨後の四葩かな | 坂本 雅則 |
| | 梅雨晴間コロナ太りとなりけり | 木村 和風 |
| | 向日葵や 今朝の悩みを 吹き飛ばす | 牧野 はつよ |
| | 桜咲く 手話の子集ふ 真ん中に | 牧野 はつよ |
| | 紫陽花や 名刹ごとに 色変わり | 鎌田 洋 |
| | 裏小路 鉄線絡む 竹矢来 | 鎌田 洋 |
| | 徘徊の父 木犀の香のたより | 磐田 小 |

| | |
|--------------------|--------|
| 指揮棒の 降りた瞬間 花振るう | 磐田 小 |
| 花万朶 参道あほる 日泰寺 | 小松 とみゑ |
| 私より 頭垂れをり 百合の花 | 小松 とみゑ |
| 花吹雪 帰る児童の 開く傘 | ふる武 |
| 透かし百合 咲いて佐渡の香 思い出ず | 香女 |
| 艶色を増し 梅雨に微笑む 紫陽花や | 香女 |
| 雨宿り ロビーのばらに 包まれて | 松波 壽子 |
| 荒れ狂う コロナを諭す 花の舞 | 松波 壽子 |
| 紫陽花や 集ふ大顔 水喰らふ | 伊藤 白雲 |
| 大日向葵 土砂降りの中 起ち竦む | 伊藤 白雲 |
| 木洩れ日の 百合の小径や 車椅子 | 今堀 あや |
| 百合匂ふ 木陰の匂帳 開きぬし | 今堀 あや |
| 花を活け 見様見真似の 天地人 | 橋本 律雄 |
| 濃紫陽花 屋台賑はふ 町が好き | 橋本 律雄 |
| 雨音を足して紫陽花今日の色 | 杉柳才 |
| タンポポを握り眠る子パパの背に | 杉柳才 |
| 鳳仙花 盛りてはじく 千の種 | キタロー |
| 登り来て山の岩場に花は咲く | 加藤 美穂 |
| 人知れず山の岩かげ咲く百合よ | 加藤 美穂 |
| 陽炎とのおぜん蔓燃え上がり | 川地 としみ |
| ヒマワリは陽に恋してる見つめてる | 川地 としみ |
| 大輪が 微笑むやうに アマリリス | 彦坂 茂光 |
| 笹百合の 首の折れたる 崖の下 | 彦坂 茂光 |
| この花は何の花かと花に問い | 窪田 昭 |
| 花に酔い人に酔いしれ酒に酔う | 窪田 昭 |
| 大仏の 光そよがす 花楓 | 小笠原 堂夫 |
| 頭の上に 烏運びし ヤマレンゲ | くまごろう |
| 得も言えぬ 花に似た蝶 亡夫なのか | くまごろう |
| 母ひとり 暮らせる生家 柿の花 | 小原 あつ子 |
| 感性の 衰へにけり 合歓の花 | 小原 あつ子 |
| 初音聞く 疲れふつとぶ 四合目 | 林 石根 |
| 向日葵や 曾孫良く食べ 良く笑う | 和田 鈴子 |
| 米寿間近 玻璃戸ごしの 花見かな | 和田 鈴子 |
| 蝶舞いて 蜜柑の花に 羽根やすめ | 三枝 |
| 三極に 会いに行きたし 真富士山 | 三枝 |
| 通学の 子を見守って 咲く四葩 | 幅 茂 |

| | |
|-----------------------|----------|
| 明け方に 母の摘み取る 花オクラ | 幅 茂 |
| 山青く ポツリポツリと 朴咲けり | 岡本 順子 |
| 風うけて 蓮の葉水の 留まらず | 岡本 順子 |
| 木蘭は みあげる夜空を 咲ききそう | 海道 |
| 紫陽花の 光りあふるる 雨あがり | 海道 |
| 化石とや メタセコイアの 青葉風 | 福島 好明 |
| 昼顔の 伝ふ金網 こぼれ球 | 福島 好明 |
| 覚王山 茶室にリンと 夏つばき | 岡部 倫子 |
| 今年から 鮮やかマスク 花みたい | 成瀬 美咲 |
| 朝顔の 水やりしてた 夏休み | 成瀬 美咲 |
| 甲子園 球児たちが ひまわりだ | 笠寺のビシちゃん |
| ドラゴンズ へちまみたいに のびてゆけ | 笠寺のビシちゃん |
| 閉ざされし 山茶花の庭 猫戯れる | 星原 邦子 |
| 駅ピアノ 一輪差しの かすみ草 | 星原 邦子 |
| カサブランカ母は米寿になりけり | 山田 由美子 |
| おだやかに過ごす日々あり 葦草 | 山田 由美子 |
| 昼顔の 淡紅色や 通学路 | 川北 康子 |
| 里山に 枸橘匂ふ 夕間暮れ | 川北 康子 |
| 紫陽花や 傘カラフルに 競ひ咲く | 定直 佳代子 |
| くちなしや 彼見送りし 夜の道 | 定直 佳代子 |
| 群青の 沢紫陽花や 躰口 | 佳呼 |
| 湧き水や 池になほ濃き 蓮の花 | 佳呼 |
| 平和記念 慟哭しとど 黄菊満つ | 紙音 |
| さゝ百合や 「らしくぶらず」の こゝろ秘め | 紙音 |
| 素嬪のステイホームや合歓の花 | 陽光 |
| 振花へ一段ごとの天日かな | 陽光 |
| 春の花びら 広がってさいて ちっていく | 都築 太一 |
| 花がとじて いてさくと ドキドキに | 都築 太一 |
| いけ花の 名前も書いて 玄関に | 松久 喜市 |
| ホームには 椿の花が よくにあう | 松久 喜市 |
| ツユクサを 真珠のごとき 露飾る | 位田 仁美 |
| 水浴びの シロクマ眩し カンナ咲く | 位田 仁美 |
| 我が想ひ 野菊に託す 誕生日 | 米持 照美 |
| 七色の 雫抱ふる 濃紫陽花 | 米持 照美 |
| 朝顔や 学舎の子等の 声清し | 小野 薫 |
| 窓口の 優しき声や 秋桜 | 小野 薫 |

| | |
|---------------------|--------|
| かにかくに 老いて今年も 桜かな | 川崎 喜久子 |
| 紫陽花や 施設安居は 造花にて | 川崎 喜久子 |
| 紫陽花や 幼な子いっぱい 公園へ | 一と |
| 春が行く 妻の生け花 道の草 | 一と |
| 凄かみし 夫に供えし 白百合香 | 伊藤 洋子 |
| 戒明朝 寺に香りし 蓮の華 | 伊藤 洋子 |
| あぢさゐや 花芽さだめぬ 剪りどころ | 緒方 明博 |
| 茶の花の 強き光を 知らぬげに | 緒方 明博 |
| 紫陽花や 驟雨に映える 遊歩道 | 木田 準一 |
| 虹見ゆる 四葩楽しむ 半夏生 | 木田 準一 |
| つきみては コロナのさるを いのりつつ | 石井 克己 |
| ひまわりの 迷路を駆けて 息が合う | 本多 キクエ |
| サフィニアを 植えて令和の 夏花壇 | 本多 キクエ |
| ランドセル あじさいよりも かしましく | 直子 |
| 半夏ダコ 今年は特に 食べなくっちゃ | 直子 |
| 朝顔と 遊びし妹は 明日嫁ぐ | 伊藤 半一郎 |
| 揚輝荘 雨の似合ふは 紫陽花かな | 伊藤 半一郎 |
| 石段に うす紅点して 散るさくら | 藤原 嘉津子 |
| 野路を行き 花の道かと れんげ草 | 藤原 嘉津子 |
| 錦鯉 水連の花に 語りかけ | 渡邊 勝子 |
| 母似の サルスベリの花 耐えていて | 渡邊 勝子 |
| 年少も 卒寿も見入る 百合の園 | 松林 亮子 |
| シリウスに 皇帝ダリア 空威張り | 松林 亮子 |
| 東山 ケリーの花が 永遠に咲く | 小笠原 堂夫 |
| 曇天に 色を差したる 花菖蒲 | 恵蘭 |
| 君待てば セピア色なる 水中花 | 恵蘭 |
| コロナ禍や 青葉若葉に 変わりなし | 岩田 幸子 |
| コンクリを やぶり顔出す 月見草 | 岩田 幸子 |
| ひまわりも 猛暑に少し 頭垂れ | 小山 良實 |
| 踏まれても つゆ草可憐 生きてゆく | 小山 良實 |
| ゆりの香に コロナの憂い 忘れ去り | 佐藤 成子 |
| 輝きし 金シャチ花の 雲の上 | 今村 圭佐 |
| 草の花 しぶとく咲けよ 頑張れよ | 今村 圭佐 |
| 満開の ササユリ谷に 風立ちぬ | 佳甫 |
| 口開けた 小鳥の如く 咲く紫陽花 | 佳甫 |
| 入日さし ハイビスカスの 朱は増せり | 竹上 裕子 |

| | |
|---------------------|--------|
| ラベンダー コロナにまけず ボーリング | 高名 俊昭 |
| さくらんぼ 茶豆とともに 何年も | 高名 俊昭 |
| 紫陽花の舞台賑わす七変化 | 北野 剛 |
| 紫陽花が迷路のごとく 咲き誇り | 北野 剛 |
| 花の世話 麦わら帽の 親子かな | 滝 良恵 |
| コロナ禍も 花移ろひて はや初秋 | 滝 良恵 |
| 濃紫陽花 ママチャリを押す 坂の町 | 松田 英子 |
| 沈丁花 蒟蒻問答 していたり | 松田 英子 |
| 蔓伸びて カボチャの花の 先ずひとつ | 秋月娘 |
| 猛暑など 物ともせぬか サルスベリ | 秋月娘 |
| 向日葵の 個性溢るる 船出かな | 浄司 |
| 柿落ちて 想う地球の 底力 | 浄司 |
| 雲の峰スワンボートで手を伸ばす | 渡邊 美愛 |
| 組んだ手は蕾のごとく長崎忌 | 渡邊 美愛 |
| 石楠花やもう手を繋ぐ歳過ぎて | 水野 大雅 |
| コスモスのささめく方が汝の道 | 水野 大雅 |
| 礮の萩 揺らし駆けゆく 郵便夫 | 柘植 登志子 |
| 汗流し 先祖供養に ほうずきを | 加藤 富江 |
| ひまわりの 雨なし猛暑に 首が折れ | 加藤 富江 |
| 紫陽花も 花枯れ侘し 驟雨かな | 平野 弘 |
| すいれんの 花に見とれて 年令忘れ | 杉浦 雅代 |
| ああじっさい 子らのアツさに 勝てぬ夏 | 立嶋 幹太 |